

環境経営 CSR

神奈川県技術士会環境マネジメントセンター 大川 治

1. はじめに

われわれ神奈川県技術士会環境マネジメントセンターの環境経営メルマガをご愛読下さいましてありがとうございます。読者の方にあつく御礼申し上げます。なにかこのところ環境ISOにつづいて、環境経営とか企業の社会的責任、CSRなどと世の中が喧しくなってきました。CSRというのは、Corporate Social Responsibilityの略で、企業の社会的責任のことをいいます。もう環境を抜きにしては会社経営を語ることは出来ません。逆に言えば環境を考えないで会社の経営に当たっていらっしゃる経営者はいないでしょう。われわれの住んでいるこの地球がなにかと危なくなってきたようです。ただ、だからといって胸をはってうちは環境経営をやっているといいきれる社長さんもあまりいらっしやらないと思います。引き続きさらに一年寄稿する機会をいただきましたので、特に中小企業の方々に向けて毎回やさしく環境経営、CSRについて発信していきたいと存じます。

2 環境経営とは

環境経営とはなんでしょう。環境を視点にいれて企業経営をしていくことそのもので、企業の社会的責任、即ちCSRはその重要な要素といえます。企業の社会的責任といわれればなんとなくわかったような気がいたしますが、反面なんとなくわかったようでわからないような気がすることも事実でしょう。いうならば、環境という言葉が、非常に広い意味をもっており、自分の周りで自分以外のものはすべて環境といえるでしょう。極論すれば宇宙がすべて環境といえます。現代の哲人であり才人であり、もうなくなってはいますが、レオナルド・ダ・ヴィンチを超えるといわれるバックミンスター・フラーの詩にそのようなものがあります。その詩は、『その代わりに宇宙は自分を包含したものであり、宇宙と環境との違いは、自分だけだ』とつづきます。『その自分は、観察者であり、行為者であり、考えるひとであり、ものごとを愛する人、すべてのことに喜びを感じるひと』と結ばれて

います。哲学的なことはさておくとして、宇宙も環境も同じ、世の中をエンジョイしながらなにやっても環境をなんとかしていることになります。

ということで、環境経営は多分野に関連したものであるので、いろいろなひとがいろいろなことをいうので、聞くひとにとっては、いまひとつ概念がつかみにくくなってしまっているでしょう。要するに環境を視点にいれて企業経営をしていくこと、これが環境経営であり、CSRそのもの、企業の社会的責任そのものであります。

3. 例えば

今から7年前の1999年、平成11年9月30日ですが、茨城県の東海村でJCO東海事業所転換試験棟の、原子力高速実験炉「常陽」のウラン燃料を加工する段階で臨界事故が起きました。国際原子力機関（IAEA）による事故調査報告書によると、主に人為ミスと安全原則に対する重大な違反が重なって発生したものであると原因が指摘されていますが、周辺住民の健康、地域農産物などが大丈夫かどうか、大騒ぎになったことがありました。こんなことになったのも企業がしっかりしていなかったため、重大な社会的責任を負わなければいけません。無責任な会社はつぶれます。

ある顧客が、前と同じこれこれのものを購入して使いたいと思ったとき、前にそれを納入した企業（あなたの会社です）が倒産でもしていたらどうでしょう？お客さんは大変に困ります。社会に大変な迷惑をかけることになります。ここでよく考えてみると、あなたの会社が、談合やって不当に値段をつりあげていたり、偽装したり、悪いことをして世に害毒を流している企業でもない限り、企業が存続していることそれ自体が重大な企業の社会的責任を果たしていることになります。やさしく言えばこの場合、皆さんの会社が存続していること、それ自体がCSRをやっていることになります。

